

御縁尊とし

花の美しさ緑のさわやかさ

水は自らの次女をけして

この世のいのちとなる

竹 ふしありて強し
人 こん 難にたえて
徳 光りをます

人生は心づくりの
道場である

人の機嫌はとらなくていいよ

自分の機嫌をとることの方が

大事

報恩感謝 喜び 尊敬

これが幸せへの道

魂を映す鏡

それが運命であり境遇である

心を映す鏡

それが肉体であり行動である

なやみは天よりの手紙

読みて悟る

天命 運命 生命

一度命令をうけたらかえることができないもの
男に生まれたら男 女に生まれたら女これが天命である
生命は運命との組合せによつて長短ができる
自分のやり方心のもち方が天に通じめぐり運んで
又、人間の方にかえつてくるこれが運命である
運命は人間の努力によつて変わるものである

幸福というのは中心を保つということだよ
右が我家、我子、我がためならば左は社会の
ため親のため、思人のためどちらにも傾かない
中心が大事だよ

親
しみにまさせる力なし

的は先方にあるのではない

自らの手元にある

心のあり方つかい方もち方考え方
これをまず第一に考える
周りのことは只おもしろく
ながめていればいいんだよ

生かされて活きる

生かしたものが活かされる

人の心に光をつける

これを徳というんだよ

根深くして

枝葉よく繁る

思わぬような幸運も

夢のような幸せも種がまいてあれば

願わなくてもはえてくるよ

知恵も力も親切も

人のために出さきつて

空になりなさい

自分の徳不徳が相手に映つて
自分に返ってくる

空の理をたのしみて
自由自在のめぐみに
生きる

通さぬは通すがための

道ぶしん

通るに通れんこすにこせない道があつても
魂をみかけ心をつくれ道はおのずと開かれる

人生最後の勝利は
徳である

水は魂にいたり
破は心にいたり

この世は願いのとおりには

ならない

心どおりになってくる

なるほどの心なるほどの理
八方をひらく

人の心の奥に咲く
花を見つめて五十年
地上天国の夢を追う

積善の家のに余慶あり

いづれ満開の花が咲くのをたのしみに
性根をしっかりともって強く生きぬくのだ
私の生涯はその参考品だよ

この世に不思議という

ことはないよ

どんなことも天命として楽しむ時に
不幸や苦しみが天の恩恵と
変わる

なに見てもなに聞いても

ながめるような

ながめて楽しむような気持ちでね